

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 22 日現在

機関番号：32623

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2011

課題番号：19720206

研究課題名（和文） ベトナム考古学データベースの構築

研究課題名（英文） Making of Vietnamese archeology database

研究代表者

阿部 百里子（ABE YURIKO）

昭和女子大学・国際文化研究所・客員研究員

研究者番号：50445615

研究成果の概要（和文）：本研究は、ベトナムの遺跡・遺物の情報を集成したベトナム考古学データベースの構築をめざすものである。ベトナム考古学及び関連諸科学関係図書や雑誌の書誌情報をはじめ、過去 35 年分の遺跡調査報告年報や学術雑誌の調査情報や遺跡、遺物、碑文といった各地の遺跡関連史資料をデータ化し、ベトナムの考古遺跡に関する基礎データを集成した。また、遺跡位置情報や遺物情報を含む「港市遺跡データベース」や「ベトナム出土銭データベース」なども作成した。

研究成果の概要（英文）：This research aims at construction of the Vietnam archaeology database which collected the information on the ruins and remains of Vietnam. First, the bibliographic information on the books of the Vietnam archaeology, journal of the ruins investigation report for the past 35 years, and the investigation information on a scientific journal were data-ized. Moreover, the historical records about the ruins in Vietnam, such as remains, position information, and stone monument, were data-ized. And the collection of basic data about the archaeological ruins in Vietnam was created. At present, "the database of old coins excavate from Vietnam", "the ruins database of a port city in Vietnam" including ruins position information and remains information, etc. were created.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	700,000	0	700,000
2008年度	559,530	167,859	727,389
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総計	3,659,530	887,859	4,547,389

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：考古学、ベトナム、データベース、遺跡、情報、国際情報交換

1. 研究開始当初の背景

近年、ITの進化により、考古学の分野でも情報のグローバル化が著しい。このため日本考古学を専門とする研究者であっても、その研究の比較材料として外国の遺

跡や遺物、文献、画像データなどを引用することは、研究の方法として当然のこととなってきた。

このような状況下において、ベトナム考古学の情報は、残念ながら情報源である文献の

ほとんどがベトナム語であるため、外国人研究者にとっては扱いにくい資料がほとんどである。

また現在ベトナムは、経済発展が著しく、開発に伴う事前の発掘調査が急増している。骨董の収集も盛んになり、これらの調査情報は、毎年紙ベースによって報告されているが膨大である。考古学関連図書の刊行も年々増加しており、これから研究をはじめようとする研究者にとって、これらを横断的に検索し、活用することはほぼ不可能であろう。

ベトナムは、東南アジアに属するとはいえ、東アジアと東南アジアの結節点に位置する。その文化は、原始時代から近世・近代に至るまで、中国的な要素と東南アジア的要素を兼ね備え、文化の構造的特質には東アジアとの共通点を見いだせる。また、古くから東西交易の中継地点として中国や日本、西方地域などの東西の文物が流入し続けてきた。アジア各地の文化要素を取り込んできたベトナムの考古遺物や遺跡の研究は、ベトナム一国の研究に留まらず、アジア全体の文化現象の解明に寄与するものである。

その国際色豊かな遺物群は、ベトナムのみならず世界各国の研究者から注目されている。今後、さらに国際的な調査研究が盛んになっていくであろうベトナム考古学にとって、基礎的なデータの整理は、研究を進展させる上で急務となっている。

2. 研究の目的

ベトナムでは、外国人研究者が考古資料を調査することは非常に困難である。近年は考古学調査数が増加しており、毎年刊行されている考古学調査報告集は年間約 400 報告、800 ページに及んでおり、またベトナム語によって書かれているため、外国人研究者にとっては、扱うのに高い障壁がある。またベトナムでは専門書や地方での出版では印刷部数が少なく、外国はもとより、国内の書店でもほとんど入手することができない。このことは、ベトナムおよび汎アジアにおける国際的な考古学研究の進展を妨げている。

本研究では、これまでに確認されているベトナムの考古遺跡の所在地、年代、遺構・遺物、関連史料・遺跡、参考文献などの基本的な情報をデータ化する。また、各遺跡の位置情報や関連史資料をデータベースと統合することで、ベトナム研究の調査・研究の足がかりとなるベトナム考古学データベースを構築する。

また、この情報を遺跡の種類や各年代、遺物の種類など様々な要素で階層化し、ベトナムの地図に空間情報として反映させ

る。ベトナムの遺跡が空間情報の形で集約・公表されることは、観光立国であるベトナムにとって、大きな効果が期待できる。また、ベトナム人自身がベトナムの遺跡を認識することで、開発に伴う破壊の危機に瀕している文化財の保存活動につながるだろう。

なお、このデータベース完成後は、インターネット上で公開し、研究者同士が共有できるよう計画している。地名や遺跡名からの検索が可能になることで、調査年度ごとに分割された調査報告書を横断的に検索することができる。

3. 研究の方法

ベトナム考古学関連の遺跡の調査報告や研究論文、図書をベトナムで出版されている現地の情報から探しだし、収集する。ベトナムでは遺跡踏査を含め、発見・調査された遺跡は必ず遺跡調査報告集の『*Nhung Phat Hien Moi Ve Khao Co Hoc* (ベトナム考古学年報)』に報告することが義務づけられている。そのため、過去 35 年分のこれらの資料をデータ化して分析する。また、『*Nghien cuu Lich su* (歴史研究)』やベトナム考古学関連図書の書誌情報も合わせてデータ化することでベトナム国内にある遺跡の情報の概要を網羅し集約することができる。また、これらの遺跡に関わる歴史資料・文献史料や参考文献、映像資料、位置情報などの基本的な情報を調査・収集する。さらに、日本国内にあるベトナム考古学関連の資料も調査・収集し、統合して、データベースとする。

なお、ベトナム語が入力できないパソコンからでも検索ができるよう、ベトナム語はすべて、声調・発音記号を付けたものと、付けていないもの、二通り入力することにより、外国人にとっても扱いやすく、有用性のあるものとする。なお、データベース作成に当たっては、ベトナム考古学の日本におけるの学術用語の表記の統一も併せて行う。

4. 研究成果

本研究期間内に実施した成果を以下にまとめる。なお、この成果の一部は、2012 年秋頃に web 上で公開する予定であり、アジア考古学研究の進展を促す意義を有する。

(1) 年刊の遺跡調査報告書の『*Nhung Phat Hien Moi Ve Khao Co Hoc Nam* ~ (ベトナム考古学年報)』については、1976 年以降に刊行された分について、掲載された 8,904 報告の基本的な書誌情報をベトナム語 (声調・発音記号を付けたものと、付けていないもの、2通り) データ化した (表 1)。学術雑誌『*Nghien cuu Lich su* (歴史研究)』については、掲載された 3,781 論文の基本的な書誌情報をベトナム語と英語で入力し、データ化した。また、ベトナム考古学や歴史学分野の図書や専門雑

誌などの書誌情報 435 冊分及び、関連関連諸科学の図書や専門雑誌などの書誌情報 300 冊分を入力し、データ化した(表 2)。

これらのデータは、研究論文名、遺跡所在地、著者、発行年、巻号、ページなどの書誌項目によって関連付けされ、統合することによって横断的な書誌情報検索ができるよう、編集作業を行った。

serie	N0	Tác Giả	Mục	Tỉnh	p.p
NPH	79	Hà Văn Tấn, Trịnh Dương	Khuyến tại hai đầu thú ở Xuân An	Nghệ Tĩnh	300
NPH	80	Võ Hưng, Nguyễn Lân Cường	Di cốt người trong mộ thuyền An Khê	Thái Bình	303
NPH	81	Nguyễn Đình Chiến, Nguyễn Duyên Bằng	Mộ quan tài hình thuyền ở Tam Đa Đê	Hải Phòng	308
NPH	82	Nguyễn Đình Chiến, Vũ Sinh	Mộ Quách gỗ ở Ninh Giang	Hải Hưng	310
NPH	83	Ngô Sỹ Hồng, Nguyễn Duy Tỳ	Ngôi mộ ở Đình Công	Thanh Hoá	312
NPH	84	Nguyễn Đình Chiến, Nguyễn Thị Don	Mộ gạch cuốn ở Khương Trung	Hà Nội	314

表 1 『Nhưng Phát Hien Moi Ve Khao Co Hoc Nam~(ベトナム考古学年報)』の入力情報例 (一部抜粋)

Title	Author 1	Author	Year	Province	
Địa chí Quảng Ninh (Tập 3)	Tỉnh ủy - Ủy ban Nhân dân tỉnh Quảng Ninh		2001	Quảng Ninh	General
Tiền kim loại Việt Nam	Bảo tàng Lịch sử Việt Nam	Phạm Quốc Quân (Chủ biên)	2005	TP. Hồ Chí Minh	Archaeology
Kho báu tiền cổ Việt Nam	Bảo tàng Lịch sử Việt Nam		2006	Hà Nội	Archaeology
Thạp đồng Đông Sơn	Viện Khảo cổ học	Hà Văn Phụng	2008	Hà Nội	Archaeology
Gốm Chu Đậu	Bảo tàng tỉnh Hải Dương	Tăng Bá Hoàn	1999	Hà Nội	Archaeology

表 2 ベトナム考古学関係図書の書誌情報入力例 (一部抜粋)

No.	22	bibliography	NPH1998	year	1999
division	hard	Place	Ho Chi Minh		
Author	Pham Huu My, Pham Huu Cong				
De Muc	Tien kem thoi Nguyen phat hien tai quan Tan Binh, TP.HCM				
論題名	ホーチミン市タンビン発見の阮朝の鉛銭				
Title	The lead coin of Nguyen dynasty found on Tan Binh, TPHCM				
abstract	1998年、家屋建設中に、深さ1mのところから壺に入った刺銭を発見。総量はおよそ200kg、鉛銭多い。総数35224枚。1861年のフランス軍の侵攻時に埋められた。				
itions	嘉隆通寶	1813-1819	Nguyen	Lead (70%)	
	明命通寶	1820-1840	Nguyen	lead	
	紹治通寶	1841-1847	Nguyen	lead	
	嗣徳通寶		Nguyen		

表 3 ベトナム出土銭データベースの入力例 (一部抜粋)

(2) (1)で作成したデータを活用して、「ベトナム出土銭データベース」を作成した(表 3)。ベトナムで出土した銅銭に関する出土報告や研究論文を横断的な検索によって抽出し、これらの論考中に報告されている出土地、銭種、枚数、年代、遺跡の種類、出土状況、関連文献といった各報告をデータベースとして集約した。

東アジアや東南アジアの中世・近世は、方孔円形の銅銭が貨幣経済の重要な担い手として活躍していた。それらの多くは、中国で鑄造された銭貨であったが、日本やベトナムにおいては、自国においても中国の銭貨を模した銭貨、あるいは独自の銘をもつ銭貨を発行し、流通させていた。また、近年の調査ではインドネシアにおいても一括出土銭の存在が確認されている。ベトナムにおいては中国や日本の銭貨がベトナムの銭貨とともに流通し、歴史時代の遺跡から普遍的に出土する汎アジア的遺物の一つであり、その具体的な様相を知ることは、ベトナムのみならず、中国や日本の貨幣流通経済史研究に具体的な研究材料を提供するものである。

特に、一度に大量に発見される一括出土銭は、容器に入れられて埋められた、正にその時代に流通していた銭貨がそのまま掘りおこされた遺構・遺物である。一括出土銭の研究は、日本においては盛んであるが、海外においては一般的な研究ではない。ベトナムにおいても、調査や発見の報告はあるが、国内外の他地域との比較や事例を引用した研究などは行われてこなかった。一括出土銭の研

究には、膨大な数量の銭貨を扱う必要があり、また、銭銘の漢字を解読する必要があり、ベトナム人研究者にとっても高い壁がある。しかし、一括出土銭は、当時の銭貨流通のありかたを考古学的に解明する格好の手がかりである。

本研究で作成した「ベトナム出土銭データベース」により、ベトナムの出土銭情報へのアクセスが容易になることは、銅銭が出土する汎アジアにおける銅銭研究に大きな弾みを与え、アジア考古学研究の進展を促す意義を有する成果である。

(3) ベトナムの対外貿易の舞台となった歴史的港市について、その地域の遺跡や遺物の情報、位置情報や研究論文、史資料、碑文についての情報をデータ化し、集めた。おもに資料を収集したのは、ベトナム中部のホイアンと北部のフォーヒエンにおいてである。

ベトナムは、金属器時代においては中国や台湾、フィリピンなど、中世・近世においては日本やヨーロッパの国々を加えた多地域と海を介した交易、交流があったことが、近年の研究からあきらかになっている。その窓口となっていたのが港遺跡であり、とりわけ古代からの港ホイアン及びその周辺地域や中世・近世の港フォーヒエンは世界的にも有名な港市である。

当然、これらの遺跡には外国人の痕跡が様々な形でこされる。なかでも石碑は、町中に存在しており、中国人などの外国人の名前が多数みられ、外国との交流を示す一級資料であるが、その詳細な情報は研究者が扱える状態で公表されてこなかった。

本研究では、遺跡に残る碑文について、文字をデータに起こすとともに、ベトナム語に翻訳し、漢字及びベトナム語から検索ができるよう編集を行った。このデータにより、アジア各地に残る石碑の情報との比較分析研究が可能となり、アジア史研究に新たな研究切り口を見いだす創造的な研究である。

(4) 今後の展望は、上述の(1)~(3)で収集してきたベトナム考古学情報のデータを組み合わせることにより、ベトナム考古学 GIS (Geographic Information System) の成立を目指すことにある。本研究期間内に、主にベトナム中部の遺跡について、GPS や Google map から位置情報を収集し、システムの構築に必要な基礎的な情報を集積してきた。今後は、実用性のあるシステムの設計について、専門家からのレクチャーをうけ、構築作業を実施していくと共に、公開の方法についても検討が必要となる。この研究は、今後も継続して実施していく

計画であり、構築されれば、ベトナムにおける遺跡の分布状況を地図上にプロットし、遺跡情報と組み合わせることで、空間的階層的な遺跡の把握が可能となる。このことは、ベトナムの遺跡立地と地形、環境の関係など、様々な側面からベトナム研究の新たな側面をもたらすであろう、高い国際的評価を獲得できる有意義な研究である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

- ① 阿部百里子、菊池誠一、ベトナムの出土銭、考古学ジャーナル、査読無、No. 626、2012、5-7
- ② 阿部百里子、ベトナムにおける銭貨研究史、昭和女子大学国際文化研究所紀要、査読無、No. 12、2009、151-154
- ③ 阿部百里子、ベトナムの貿易港と日本町、考古学ジャーナル、査読無、No. 579、2008、31-36
- ④ 阿部百里子、ベトナム出土の貿易陶磁器、貿易陶磁研究、査読有、No. 27、2007、76-81

〔図書〕(計1件)

- ① 菊池誠一、阿部百里子、Nguyen Chieu、Nguyen Quan Ngoc、Vu Duong Luon 他 11 人、高志書院、海の道と考古学—インドシナ半島から日本へ—、2010、127-138、194-202

6. 研究組織

(1) 研究代表者

阿部 百里子 (ABE YURIKO)
昭和女子大学・国際文化研究所・客員研究員
研究者番号：50445615

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし